

けが重要である。

小中の差が大きかった項目は、「上履きは、1週間に一度は持ち帰って洗っている」という項目である。小学校の肯定割合が高いのに比べ、中学校では最も低いという結果となった。小学校での指導で身に付いたものが、中学校で自己判断に任せられた結果、上履きを持ち帰らなくなってしまったということであろう。中学校1年生が70%、2年生で40%、3年生では30%と肯定割合が減少していることから、そのことがうかがえる。「胸章/名票をつけている」割合は、前年度アンケートでは小学校で67%、中学校で96%と開いていたが、今年度は小学校で82%に増加し、中学校の97%と比較し、その差がほとんどなくなった。小学校における、胸章着用の徹底化が図られた結果である。この項目は中学校で二番目に肯定割合が高いが、小学校では二番目に低い。児童生徒がきまりを守る上での重要な要因は、教員の指導による習慣化であるということがわかる。

小学校で肯定割合が最も低い項目は、「目上の人には、敬語「です」「ます」で話している」である。小学校においては敬語で話すよう指導を行っているが、児童に定着していないということになる。しかし、中学校においては敬語で話す指導が定着していると考えられる。このことから、小学校において教員と話す際には、「です」「ます」を使って話すという指導を、今後一層行っていく必要がある。

児童生徒の意識を高め、「生活のきまり」を浸透させていくためには、それを指導している教員の意識が大切である。学校生活適応支援部会では、この結果をふまえ、組織全体で「生活のきまり」の徹底を図るための方策や、重点項目を決定していきたいと考えている。

小中相互乗り入れ授業

◆ 本地域学校園では、小中相互乗り入れ授業を教員相互の学びの場としてもとらえています。お互いの良さを取り入れ授業にいかすことで授業力を向上させることができ、その結果、児童生徒の学力を向上させることができると考えています。

① 中学校教員の小学校への乗り入れ授業

【目的】小中教職員の相互理解や指導の工夫・改善を目指して実施し、さらには、小学校6年生の中学校の学習に対する不安解消を図る。

- ・ 原則として中学校教員がT1で授業を実施する。
- ・ 地域学校園の小中学校で相談して乗り入れ授業の実施教科を決定する。
- ・ カリキュラムの充実や今後の小学校英語の教科化への準備として活用する。

② 小学校教員の中学校への乗り入れ授業

【目的】小中教職員の相互理解や指導の工夫・改善を目指して実施し、さらには、中学校1年生の学校生活適応の支援に資するものとする。

- ・ 小学校教員の役割を明確にして実施する。
- ・ 今後数年で、小学校教員全員が中学校に乗り入れ授業を実施できるようにする。
- ・ 乗り入れ授業を、今後の小学校英語の教科化への準備として活用することもできる。

小学校 ⇒ 中学校



6/23 英語 阿部敏行 先生 (岡本西小)



7/2 美術 細内俊久 先生 (岡本小)



7/7 家庭 鈴木紀子 先生 (岡本西小)

中学校 ⇒ 小学校



6/23 英会話 齋藤雅大 先生 (岡本小へ)



6/25 国語 横塚高聡 先生 (岡本西小へ)



7/10 体育 大門晃 先生 (岡本西小へ)

運動会ボランティア

5月20日(土)、小学校の運動会に、中学生がボランティアとして参加してくれました。今や運動会には欠かせない、頼れる運営スタッフです。

◆ 岡本小学校 運動会ボランティアの様子



上の2枚は準備係のお手伝いの様子です。下の2枚は全校ダンス(ソーラン)に参加した様子です。



◆ 岡本西小学校 運動会ボランティアの様子



ゴムやネットの準備と持ち手として協力

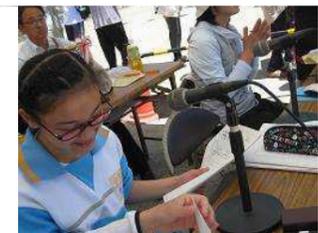
審判として、ピストルの合図で勝敗を決定



来年生のゴールテープ係



採点係として赤白の勝敗を確認



放送係として、ゲームや踊りの内容を放送



母校を訪問してのあいさつ運動



6月17日(水)の「あいさつ運動」の様子です。5人の卒業生が、朗らかな笑顔で元気いっぱいに「おはようございます!」とあいさつをしてくれて、普段は声の小さい小学生たちも、吊られて大きな声であいさつをすることができました。中学生があいさつ運動に来ることを、小学生たちはとても楽しみにしています。